

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 14

2012年10月発行



企画展関連講座

坂本龍馬と 幕末・明治維新

講演会&連続講座2012
河内平野～大和川付け替え

旧植田家住宅アンケート結果



展示のご案内

酒飲み猿

鬼の三味線

さる、ひつく

ボケし、ボエー

コケ コマコケ(狸)!

狐平から駒!

おおつえ

大津絵

植田家 コレクション

2012年11月2日(金)～12月26日(水)

休館日=火曜日、11月5日(月)・26日(月)

開館時間=午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【観覧料】一般200円、高校・大学100円、中学生以下は無料
※11月1日(木)～11月30日(金)は観覧料無料期間

【主催】NPO法人HICAL

福は〜外!?

提灯と釣鐘

外法の梯子割り?

八尾市指定文化財
安中新田会所跡 旧植田家住宅
〒581-0084 大坂府八尾市植田町1-25 <http://kyo-uedakefutaku.jp/>

秋季企画展

「植田家コレクション～大津絵～」

2012年11月2日(金)～12月26日(水)

旧植田家住宅の収蔵品の中から、ユーモラスなキャラクターが魅力の「大津絵」を一堂に展示します。

※休館日はP15をご覧ください

次回企画展

○2013年1月9日(水)～2月25日(月)

「むかしのくらし」展

Contents

- 4 企画展 関連講座
「坂本龍馬と幕末・明治維新」
(2012.07.22)
- 6 河内平野の過去・現在・未来
- 7 連続講座2012—第1期—
大和川付け替えと人々の暮らし
- 8 安中新田会所跡 旧植田家住宅
アンケート結果
- 10 第4回 河内木綿まつり
- 11 インターンシップを終えて…
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記⑭
- 13 植松のまち・ひと—第8回
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (八)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



表紙写真

「大津絵《外法の梯子剃り》」

大津絵は、近江国追分・大谷周辺(現 滋賀県大津市)で、江戸時代の初め頃から、東海道の土産物として売られた民画です。本図は、梯子を掛けて外法(長頭翁)の頭を剃刀で剃る大黒天が描かれ、長寿や願い事がかなうといった意味が付けられています。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
<http://kyu-uedakejutaku.jp>

2012年7月22日(日)

企画展「書画に見る植田家の幕末・明治維新」

関連講座

坂本龍馬と

幕末・明治維新

真の坂本龍馬像に迫る!!



講師の林 慎吾さん (大阪龍馬会)



龍馬の人物像や手紙について
まとめられた講座の資料



講座の風景



イラスト/康子

「坂本龍馬と幕末・明治維新」の

講座に参加して：

「幕末・明治維新」といえば、日本の歴史の中でも人気があり、好きな人も多いのではないだろうか。私もそのうちのひとりで、特に幕末・明治維新时期に活躍した志士たちの生き様に興味と関心がある。

旧植田家住宅では、企画展「書画に見る植田家の幕末・明治維新」（七月五日～九月二日）が開催され、その関連企画として七月二十二日（日）、大阪龍馬会の林慎吾さんを講師に迎えて「坂本龍馬と幕末・明治維新」の講座が行なわれた。

坂本龍馬は日本の歴史上の人物の中でも有名で、とりわけ人気がある。しかし、私たちがよく知っている坂本龍馬のイメージは、司馬遼太郎原作の「竜馬がゆく」や、武田鉄矢原作・小山ゆう作画の漫画でアニメ化もされた「お〜い！竜馬」などの影響によってつくられたものが大きいという。今回の講座では、真の坂本龍馬像に迫りながら、坂本龍馬をめぐる当時の状況などについてのお話を聴くことができた。

主なトピックとしては「坂本龍馬が評価され、歴史の表舞台に登場するようになったのは意外にも明治中頃以降だった」り、「慶応三年（一八六七）に龍馬が起草した新国家体制の基本方針『船中八策』は後世に創作された可能性がある」こと。また、「海援隊の仕事は運輸・射利・開拓・投機が目的」だということや「亀山社中の最大の目的は薩長同盟を果たすこと」だったという話など。他にもたくさんの今まで聞いたこともなかった話に、夢中になって聞き入ってしまった。



坂本龍馬の人物像が次々と明かされる

講座では、実際に坂本龍馬が家族に宛てて送った手紙の一部が解説付きで紹介された。かの有名な「日本を今一度せんたくいたし申し候」という言葉は、文久三年（一八六三）六月二十九日、姉の坂本乙女に送った手紙の中に出てくる。この言葉の前後を通して読むと、さらに龍馬の気迫に満ちた思いがひしひしと伝わってきた。

今回、「坂本龍馬と幕末・明治維新」の講座に参加して、これまで知らなかった坂本龍馬の一面について知ることができ、改めて歴史の奥深さを感じることができた。また歴史小説や歴史本を読んでも、歴史上の人物の人物像は、その著者の解釈を通してしか読者に伝わらず、歴史上の人物について深く知るには、本人が書いた手紙や文書などを読むことが良策であるということをお学んだ。

植田家の人びとは、幕末・明治維新时期に様々な人たちと交流していたという。このことは、旧植田家住宅に残された文書や書画類などからも明らかであり、今後の調査・研究によってさらに明確になるだろう。

河内平野の過去・現在・未来

八月二十六日(日)に開催された講演会「大和川付け替えと河内平野」では、河内平野(大阪平野)の成り立ちから、大和川付け替えとその影響などについてお話をしましたが、ここでは現在の河内平野の状況について、ほんの少し述べてみたいと思います。

「縄文時代には、大阪の大半が海に沈んでいた」と言われると、どう思うでしょうか。最近では広く知られるようになったこの話も、実際に地図を見ると、結構ショッキングです。(下図・右)

大阪市は上町台地以外、河内地域では東大阪、大東、守口、門真辺りを飲み込むこの海には河内湾という名前が付けられました。太古の昔、河内平野を南から北へ流れた旧大和川は、大阪湾ではなく河内湾に注いでいたのです。

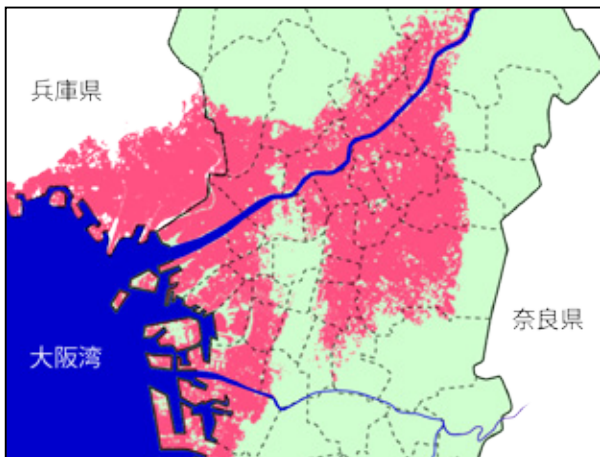
その後、海退や土砂の堆積で、河内湾は次第に小さくなっていきました。万葉の時代には「草香江」と呼ばれ、その名残は、江戸時代まで続いていたと言われています。大和川

付け替えの後に新田として開発された新開池・深野池こそが河内湾の最後の姿なのです。

では、河内湾はもう跡形もなくなってしまうのでしょうか。いいえ、そんなことはありません。確かに、水を湛えた姿は見られませんが、その地形には確かな存在の証が残されています。下の左の図を見て下さい。この図の赤く塗られた部分は、現在の土地の高さが海拔〇メートル〜7メートルの場所を示しています。これはかつての河内湾の形にほぼ一致します。川を付け替えても、干拓をしても、土地の高さそのものは大きな視点で見るとあまり変わっていないのです。

地球規模で見ると、海面は数メートル〜一〇〇メートル以上という幅で上下していると言われています。また、近年は海面が上昇しつつあるという説もあります。いつかの未来、河内湾がかつての姿を取り戻すこともあるのかもしれませんが。

(旧植田家住宅学芸員 宮元正博)



海拔 0 M ~ 7 M の場所を示した図



縄文時代の大阪平野 (松田順一郎氏作成)

大和川付け替えと 人々のくらし

◎第1回(6/2):大和川の付け替え～中甚兵衛の生涯～

◎第2回(7/7):ちょっと昔のまちのようす

◎第3回(8/4):河内木綿の歴史(体験講座)

◎連続講座2012

植田家や八尾市に関する事から身近な話題まで幅広く取り上げる「連続講座2012」の第一期が、六月から八月にかけて、全三回で行なわれました。今期のテーマは「大和川付け替えと人々のくらし」。大和川付け替え前後のお話や地域にまつわる話題など、分かり易く、盛りだくさんの内容でした。次回の連続講座の開講の前に、その様子をダイジェストで紹介します。

第一回「大和川の付け替え」

第一回目の講座は、大和川付け替えの歴史を中甚兵衛の生涯に沿って学ぶというものでした。話の中心はもちろん大和川の付け替えなのですが、旧大和川の変遷や付け替え後の新田開発についても詳しく解説があり、普段あまり意識することのない河内の一面を知ることができました。「河内」が川に囲まれている(河の内にある)地域であるということ再認識しました。



第1回講座の様子

第二回「ちょっと昔のまちのようす」

第二回は、旧大和川(長瀬川・玉櫛川)流域のすこし昔のまちの様子を航空写真や地図、古い写真などから見るという内容でした。今も残る昔のまちなみやその名残からは、旧大和川の歴史と同時に人々のくらしの歴史が読み取れます。新田開発から誕生した土地が、今もなお人々のくらしを支えていることに、新鮮な思いが起りました。



第2回講座の様子

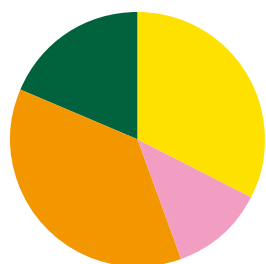
第三回「河内木綿の歴史(体験講座)」

連続講座・第一期の最終回は、河内木綿の歴史について講座と体験を通して学びました。アジア綿と米面の違いなど、綿の基本情報や大和川付け替え以降大きく栄えた河内木綿の起源から衰退までの過程を順番に追いかけてました。体験では、お馴染みの「綿くり・糸紡ぎ」を参加者全員で、昔の人の苦勞を偲びながら、楽しみました。



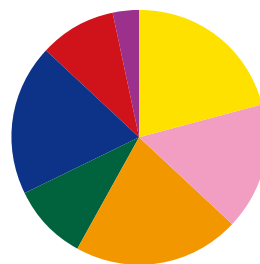
第3回講座の様子

Q7. 今後期待する展示・企画は？



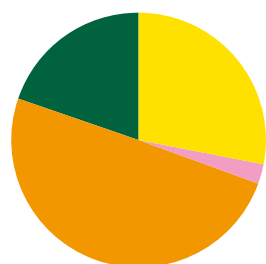
展示

- 2013.3.1～河内木綿 31人(11.4%)
- 2013.1.9～昔のくらし 62人(22.8%)
- 2012.11.2～大津絵 20人(7.4%)
- 2012.7.5～幕末・明治維新 55人(20.2%)



企画

- 写生作品展示 7人(2.6%)
- おもちつき 21人(7.7%)
- まちあるき 41人(15.1%)
- 食事会 21人(7.7%)
- お茶会 45人(16.5%)
- 落語会 35人(12.9%)
- コンサート 45人(16.5%)



講座・講演会

- 連続講座 10人(3.7%)
- 講演会「大和川付替え」 79人(29.0%)
- こどもガイド養成講座 4人(1.5%)
- 講座「坂本龍馬」 45人(16.6%)

Q. その他、希望する展示や企画は？

◎展示・企画 陶磁器展、国際交流の企画、当時の衣装・道具を用いた劇など ...。

◎講座・講演会 大化の改新、中世(平安・鎌倉)の地域、河内の歴史、八尾の偉人、地域と建物の歴史、古文書講座など...

Q8. その他、ご意見・ご感想など ※一部を抜粋・紹介

- ・キレイに整理整頓、清掃されていてどの部屋も風が通り抜け気持ちが良い。静かで落ち着けて長居したい気分。見どころが多くありあきない。よい勉強になりました。(60代・女性)
- ・今まで大事に保存され、建物の立派さに感心しました。心が安らぎました。(60代・男性)
- ・こんなに素晴らしい旧家が保存されているのをもっと多くの人に知ってもらいたい気持ちになりました。友達にも話して、また来てみたいです。(50代・女)
- ・日常とは違う空間を味わうことができました。とても楽しくわくわくしました。(20代・男性)
- ・ぶらり散歩で偶然見つけて感激しました。最近遠出をしていないので、近場でとても関心のある歴史的住宅を見学できてよかったです。(50代・女性)
- ・思ったより充実した内容で満足です。ぜひ、楽しい企画をお願いします！(40代・女性)
- ・とても興味深く昔の暮らしを垣間見れたので良かったです。又訪れたいです。(50代、女性)
- ・40年前は八尾の住人でしたが、このような史跡があることを初めて知りました。大和川の工事につきましても詳細を知れたことは大きな喜びです。(50代・男性)
- ・喫茶ができるところがほしい。(60代・女性)
- ・のんびりできるカフェを作ってもらえたらよいです(30代・男性)
- ・昔のなつかしい八尾を写した写真展があればぜひ見たい。以前はこんな風景だったのかや、なつかしいなぁと思いつつ楽しみたい。(40代、女性)

⋮
⋮

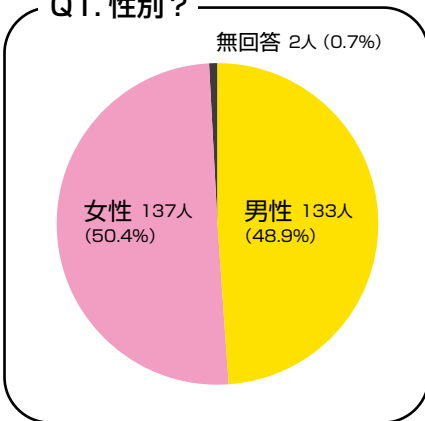
安中新田会所跡 旧植田家住宅 アンケート結果

今年5月から7月までの期間、旧植田家住宅の来館者に対して実施したアンケートの結果です。ご協力ありがとうございました。

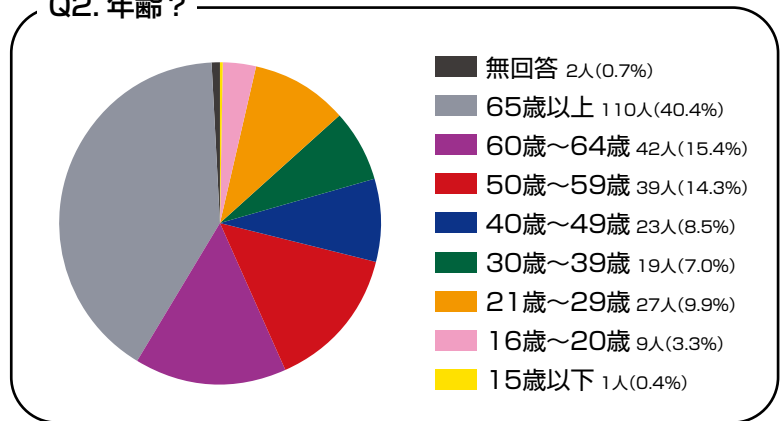
実施期間 2012.5/5~7/1

合計枚数 **272 枚**

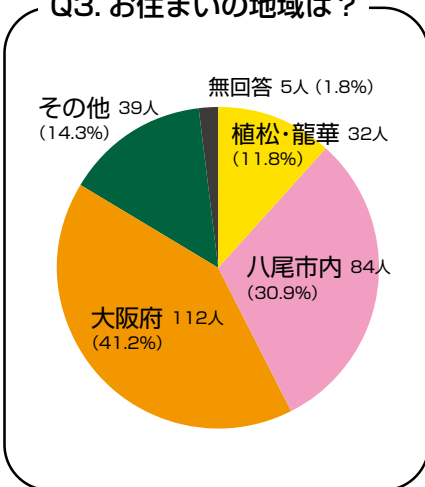
Q1. 性別？



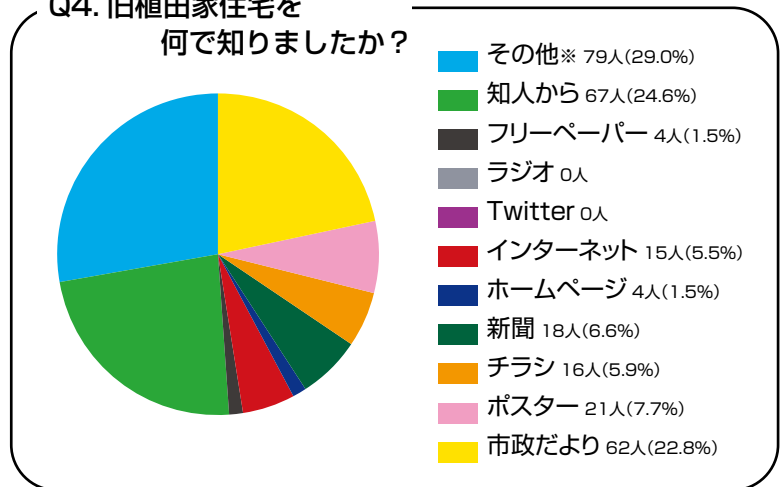
Q2. 年齢？



Q3. お住まいの地域は？

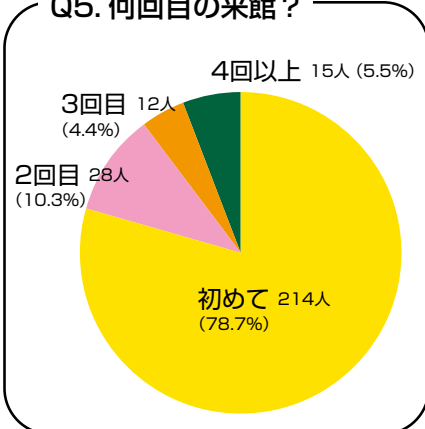


Q4. 旧植田家住宅を
何で知りましたか？

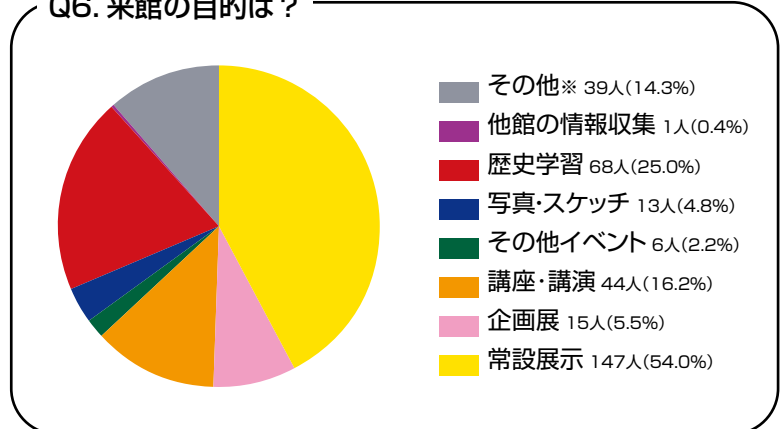


※その他 通りすがりに、団体見学で、近所なので、家族から、など...

Q5. 何回目の来館？



Q6. 来館の目的は？



※その他 古民家めぐり、俳句、学校の授業、ゆっくりしたくて、など...

今年も賑わった

第4回

河内木綿まつり

平成24年9月22日(祝・土)・23日(日)

安中新田会所跡 旧植田家住宅 編

八尾市立歴史民俗資料館主催の「河内木綿まつり」。今回で四回目となるこのイベント。今年は九月二十二日・二十三日と連休だったのですが、両日沢山のお客さんで賑わいました。

両日とも一番乗りのお客さんは子どもたち。ふだんはなかなかできない「木綿体験(綿くりと糸紡ぎ)」に、みんなヤル気満々。今年は小さな機織り機も登場し、自分の紡いだ糸で織りたい！と張り切るのですが、すぐに糸が切れたり、毛糸のように太くなったりと、思い通りにいかない糸紡ぎに四苦八苦。

二日間通いつめた自称「アルバイト!?」の子どもたちは、すっかり腕を上げ、大人のお客さんにも丁寧に指導し、「さすがやなあ」と頼りにされて嬉しそう。

大人のお客さんの中には、昨年を持ち帰った綿の種を自分で育て、収穫したその実綿を持参し、糸にまでして、満足そうに持って帰る方も何組かおられました。綿まみれになって楽しんだ参加者は二日間で合計百十八名。今年も盛況の内に幕を閉じました。



初めての糸車に緊張の様子



自称「アルバイト」の子どもたち



綿くり機で取れた綿



大人も子どもも夢中の木綿体験



自分の紡いだ糸で織りたい！



小さな織り機で機織りに挑戦



インターンシップを終えて…

【旧植田家住宅でのインターンシップ風景】



ボランティアガイド養成講座に参加



植田家検定に挑戦中



アンケートの集計作業
(集計結果は本誌8・9ページに掲載)

私は、大学で都市・まちづくりについて学んでいます。その中で、NPO法人として地域に近い存在でまちづくりをしているNPO法人HICALIを紹介していただきました。インターンシップとして、植松のまちづくりを考える会の会議への参加、旧植田家住宅での仕事、JR八尾駅周辺整備事業街並み景観検討会議への参加などをさせていただきました。私にとつては、全てが初めての体験でした。会議では、役所の方、NPO法人、地域の方たちが、住んでいる地域をより良くしようとする様々な意見を出し合っていました。自分の地域のことを真剣に考えてくれている人がいることが、素敵なことだと思いました。JR八尾駅前に植えられている河内木綿なども、景観を良くし、そこを通る人に知ってもらいたいという思いがあるような気がします。このような活動をされていることを知り、私の町でも何気なく植えられている花などに対する見方が変わりました。大切に育てられているものをもっと見てみようかなと思いました。

また、旧植田家住宅では、働いているみなさんは自分のできることを見つけて仕事をされています。私は学生で、自分にできることがあるのだからと考えました。自分にでき

ること、自分がやりたいことを探すことがとても大変だということを初めて思いました。その場に適した自分のできることは？と考えると難しく考えてしまい、指示されたこととしか出来ずにいました。指示されたことは、一生懸命やります。ただ、それではだめなのだと思いました。

インターンシップを通して一番学んだことは、自分のやりたいこと、自分は何を感じているのかということを考えてしっかりと相手に伝えることです。同時に、私にとつて今後の大きな課題となりました。私は、これまで大学の授業でも、自ら疑問に思ったことについて調べたり、行動することはなかったです。社会に出て働くにはこれらのことが大切であると感じました。私はこれからの学生生活の中でこの課題としっかり向き合い、もっと自分について考えることが必要だと気づくことができました。

様々な経験、今まで気づけなかったことに気づかせてもらうことができ、関わらせていただいた方々には、ほんとに感謝しています。短い間でしたが、たくさんお世話になり、本当にありがとうございました。

(近畿大学総合社会学部2年生 吉川沙樹)

なにわの伝統野菜 栽培日記

No.14

毒味と収穫祭とひと工夫



収穫の時を待つ毛馬胡瓜



畑に液体肥料をあげている子どもたちの様子



まずは、前回の続き、「毒味」の結果だが、ご期待通り(?)の激苦だった。ところが、ほぼ全ての胡瓜がゴーヤ並みだった昨年と比較、今年は数本を除いては、あまり苦みがなかったようだ。しかしその数本の苦さときた



結局、収穫数は、毛馬胡瓜が九十四本、勝間南瓜が三十一個、黒門越瓜が二十六個。予想していた「南瓜、バラダイス」とは程遠く、しばらくの間、毎日の食卓には必ず胡瓜がお目見えする苦い日々となった。

ら。収穫したものは、スタツフで分けたり、毛馬胡瓜を知ってもらうため、ご近所の方々におすそわけをした。「歯切れがよくて、みずみずしい」「シャキシャキで普通の胡瓜より美味しい」との声もあり、とりあえずは罰ゲーム状態の激苦胡瓜がご近所の方に当たらなくて良かった。(奇しくも苦い胡瓜の全ては、これを育てた畑担当の私に大当たり。我ながら、すごいクジ運だと思う。)

そして七月二十九日に、子どもたちと行なった**収穫祭**では、勝間南瓜の煮物と黒門越瓜の塩もみを試食した。以前の経験から、変に手をかけるよりシンプルの方がウケがいいのだ。案の定、おかわり続出で今回も、あつという間に鍋の中は空っぽになった。



【田辺大根フェスタに向けて】

今年も十二月の中頃、毎年恒例の「田辺大根フェスタ」が開催されるそう。もちろん、旧植田家住宅、そして近隣の永畑幼稚園でそれぞれ育てた大根も出陳予定。三度目の正直で、今年こそ「これぞ田辺大根DE賞」といきたいものだ。

ベテラン勢が相手の畑部門では少々厳しそうですね、今回はプランター部門に力を入れる事にし、土には**ひと工夫**してみた。ミルフィーユならぬ、ワラフィーユだ。土とワラを交互に積み重ねて層を作り、柔らかく、水はけのよい土壌にしてみた。土のPhもバッチリだ。今度こそ、次回の栽培日記で「やりましたー!」のご報告ができるよう、これから毎日行われるであろう、害虫(アオムシ等)との格闘にも気合が入ります。



土・ワラ ミルフィーユ。
略して**ワラフィーユ!**

植松のまち・ひと

第八回

◇JR八尾駅前河内木綿

八月中旬から九月にかけて、JR八尾駅前（南口）に河内木綿の黄色い花と白い綿が顔を見せた。この場所では毎年、地元住民と八尾市が協力して、綿の苗を植えている。ところが今年の「駅前河内木綿」は、例年と違って少し変化があった。

ひとつは駅舎の工事に伴い、これまであった花壇が撤去され、プランターで育てられたことである。殺風景な駅前通路（「植松のまち・ひと」第六回を参照）に並べられた河内木綿が駅舎までの導線となった。

二つ目に、今年は木綿の成長が悪く、開花時期も例年とは違っていた。これは植え

「ゆっくりと成長する、

駅前河内木綿」

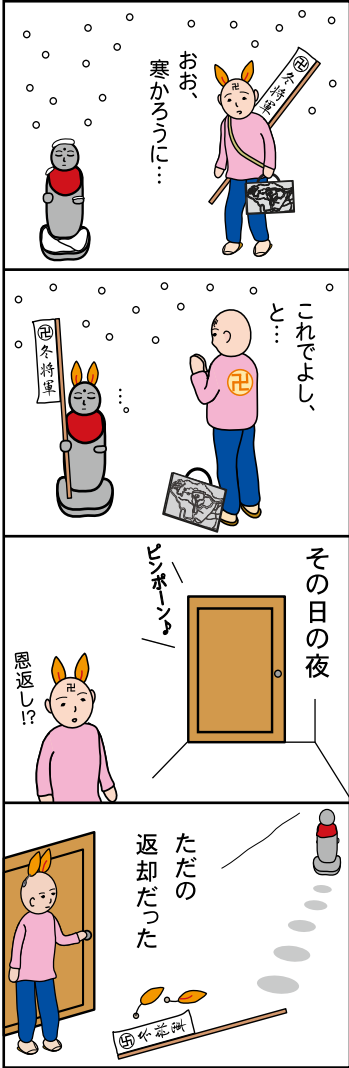
方や日当たりなどの条件が変わったことが原因かと思われたが、今年はどうやら他の場所も同じような状況だったようだ。

そして三つ目は木綿に関する写真や資料が同時に展示されたこと。植松のまちづくりを考える会が行なう駅前展示の第二弾として、苗の植え付けから収穫までの写真や『綿圃要務』といった江戸時代の資料が展示された。木綿の成長に従って展示のポスターが隠れていたり、実際の河内木綿と写真の時期との比較ができたり、これまでは少し違う楽しみ方ができた。

時間をかけてゆっくりと成長する河内木綿のように、ここ駅前もゆっくりと変化し続けている。

マンジークン

安富士 暁



今年の駅前河内木綿は



ちょっと違う!?



落穂拾い

― 今東光の董風 ― (八)

文・伊東健

の人形の顔なのだ。

(昭和五十二年四月三十日、東邦出版社発行)

『小説河内風土記巻之一』自序より

文楽への補助金支出が話題となるニュースが流れるたびに、今東光が書いた文章を思い出します。

東光が天台院に赴任した直後のことを回想した文章に以下のくだりがあります。

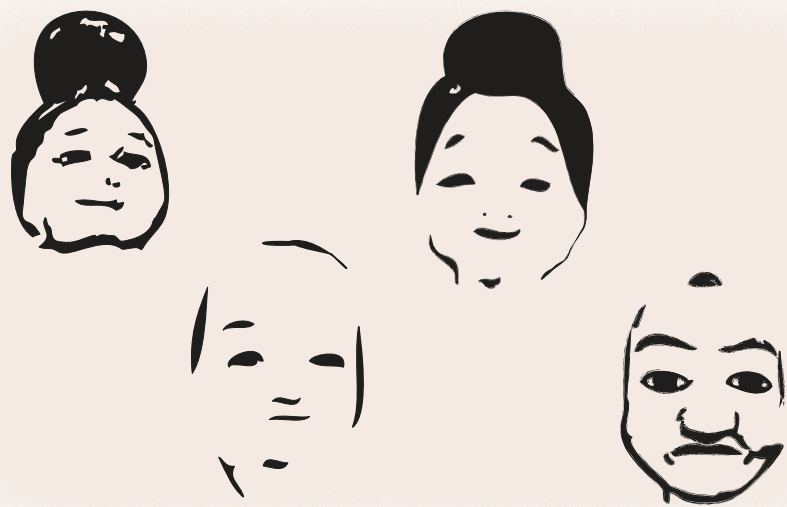
その河内八尾の国鉄の駅からぶらぶら歩いている途中、僕は幾つかの見覚えのある顔にぶつかった。何時どこで会ったか記憶は定かでない。しかしながら確に出会った記憶があったのだ。若しかすると若い時に此所に住んだことがあったかもしれないという錯覚の裡に、それ等の男女の顔を仔細にスケッチすると、はつとした。思い出したのだ。それは文楽座の人形芝居に出てくる庶民だった。主役の人形はおおむね三人遣いだ。けれどもそんな敵めしいものではない。人形遣いが一人で扱う群衆、つまり(その他大勢)

文楽で用いられる人形への関心が高かった東光は、昭和三十三年三月二十八日から連載をはじめた随筆においても幾度か言及しています。その連載は、『百日説法』(昭和三十三年八月五日角川書店発行)で読むことができます。

文楽の人形は人形使いが三人もかかるが、その顔や手には表情があるが、足となるとだらしがない。ザルツブルグの人形は足にも表情があるばかりでなく、こつこつと舞台に足音さえ立てるほどだ。けれどもザルツブルグの人形の顔は無表情で、マユも、目玉も、口も動かない。まして手を開いたり、そつたりしない。その点、日本人形の方が複雑であり、もつと精巧だ。

モーツアルトを愛した東光が、人形劇で演じられた魔笛を観賞した後の文章であり

ますが、彼我の人形の違いに思いを至らせ、的確な指摘をしています。この関心がいずれ、文楽と河内を結びつける作品の創作に結実します。続きは、次回にて。



旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」
第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

展示

※11月1日(木)~30日(金)は入館無料期間

◎11月2日(金)~12月26日(水)
企画展「植田家コレクション
~大津絵~」

—2013年—

◎1月9日(水)~2月25日(月)
企画展「むかしの暮らし」

☆1月9日(水)~2月3日(日)
施設周辺写生作品展示(ギャラリー)

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

企画

11月 3日(土) 連続講座Ⅱ(全3回)「八尾に残る映像②」
// 「八尾再発見!映像に見る八尾」
11日(日) 講座「安中新田分間絵図を読む」(小谷利明氏)
17日(土) 講座—今東光の横顔
「直木賞受賞作“お吟さま”のフカーい話」(伊東健氏)
29日(木) 旧家で楽しむ食事会

12月 1日(土) 連続講座Ⅱ(全3回)「八尾に残る映像③」
8日(土) こどもガイド養成講座③
23日(日) ちょっと昔の暮らし体験「おもちつき大会」

—2013年—

1月 12日(土) 連続講座Ⅲ(全3回)「土蔵でくらしっく①」
27日(日) こどものためのお茶会

(詳しくはお問い合わせください)

休館日カレンダー

■ = 休館日

11 November

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12 December

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

2013 / 1 January

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

●開館時間:午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

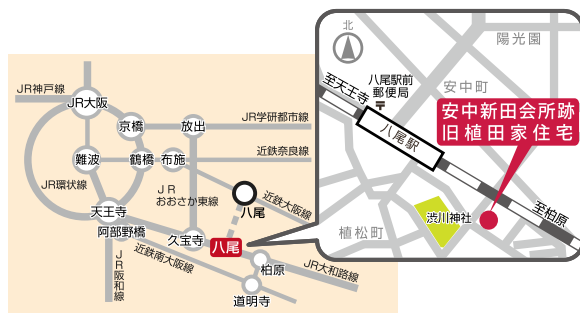
●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般200円(団体20人以上で100円)
高校・大学生100円(団体50円)
※中学生以下、身体障がい者手帳等の
所持者および介助者は無料

●お問い合わせ
〒581-0084 八尾市植田町1-1-25
TEL/FAX:072-992-5311

E-mail:info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車 南出口より徒歩約3分
◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
JR八尾駅前バス停下車 南東へ徒歩約6分

シーズクリエイトが お手伝いしていること

八尾には素敵な資源がたくさんあります。
その魅力を発信するために活動している人もたくさんいます。
そんな人たちと一緒に、八尾をもっと元気にするために、
シーズクリエイトがお手伝いしていること。
少しご紹介します。

次回、来年3月9日開催予定



八尾バル
"Living and Loving"

八尾バル

八尾のおいしい農産物とよりすぐりのお店を結んだ「地産地食」飲み歩き食べ歩きイベント。年2回、近鉄八尾駅周辺で開催。

お手伝いしたこと

店舗との調整、広報活動、および当日運営の協力

▶ HP
<http://yaobar.net>

▶ Facebook
<http://facebook.com/yaobar80>

次回、来春開催予定



ハッピーアースデイ大阪

大阪から人と地球を考える環境イベントであり、日本初の学生主体のアースデイ。行政機関や社会人サポーターたちも支援しながら運営。年2回、久宝寺緑地で開催。

お手伝いしたこと

企画、広報活動、および当日運営の協力

▶ HP
<http://www.happy-earthday-osaka.jp>

▶ Facebook
<http://www.facebook.com/HappyEarthDayOSAKA>

芸術文化あふれるまち
喜びの風を身近に

やお芸術文化サロン

芸術文化の担い手である市民、専門家、企業、教育機関などが、芸術文化振興を通じて、子どもの未来・創造を育み、八尾のまちを元気にできることを一緒に考える場。

お手伝いしたこと

広報活動、当日運営の協力

▶ HP
<http://www.city.yao.osaka.jp/0000016689.html>

私たち、株式会社シーズクリエイトは、「豊かさを創る印刷所」です。

1. 「豊かさ」の種をまくことで人々の暮らしを支えます
2. 「豊かさとは何か？」を考えるプロセスをたくさんの人達と共有することで継続的で発展的な価値を創ります
3. 社会と共にこれからの環境・暮らしを考えた事業紹介を推進します

(本社・八尾工場) 住所 大阪府八尾市羽刺町南1-18 TEL.072-948-7772 FAX.072-948-7735 HP. <http://seeds-c.co.jp>
(大阪オフィス・コミュニティデザイン部) TEL.06-4801-8200 HP. <http://seeds-c.jp/communitydesign>
(東京オフィス) TEL.03-3436-0211 (京都支社) TEL.075-812-3670 (神戸支社) TEL.078-341-8221

株式会社シーズクリエイト